

小栗畧縁起

皇
再
慶
曆
源

特67
436

相
列
藤
山
内
長
照
院

017484-000-9

特67-436

小栗略縁起

長照院

M12.5

ABF-0251





人皇百一代後小松院の御宇常例小栗の城主
 小栗孫八郎平滿重といふ者智勇兼備の士なり
 應永のころ謀叛の企あり同士の讒言せられ孫
 倉官領持氏公入ひ怒り終ひ一色左近將監本戸
 内正介と遣して征討す小栗滿重勇を揮て防戦
 けり公等あふ為城を奪ひて加勢とて喜見は縁と上杉
 四郎左衛門進次郎加りたり後後小栗城討ひてとて

満重王侯の御代に上人城内と並び高人の所出立三の
の國よりうらさう一處り、折しも相列藤澤の辺りも昔
谷よ及び横山太麻呂といふる強盗の家に宿さうして休
らひ、横山を能く獲あふといひては、此の後、
そてか、うらさうの邊のかえは、様のお木よ、
これのかき、此の馬、とく、食の穀す、
近より、
小栗満重といふ馬術の達人、

よれたる、
自ら、
か、
鳩毒を、
照、
そ、
ア、

かげとさひてもとて由とつぐ後湯をい病ありて
これとの日根橋の葉高と強てかすそ岩屋筋を
いさみ肝のれ若痛した守もす息池さう湯の毒を
かのぬ 汲や十人の鼎毒分肝泥の如く血と吐ては死を
極山人。らんひ衣服敷たと集ひて死と上所を
扱すいさ旗行十四代入京上人との状の表に同慶
はきの使者をともて一面の書とて人上皇とれとひまは後た

人日か國常陸一粟満ち 是と年十人於毒言
せられし所をわりのと年十人の葉已しとて由満ち
いさみ肝のれ若痛の守もす息池の湯を浴
せん連は年後とてとま上人及そそ奇異のあひと分
彼のおうさう人路の犬吠(鳥群)て死と救満ち入
指する死氣通もいさ杖け油て車と送り先ありあ
信二人と付て紀州さうの一日とて終て然も年大湯の

家よりいり過泉小澤で食く快復きり妻小照姫
 浦重毒殺され外と見て人よりうりた母と寫り接心の
 家とのいり武彦の令次部小進の志存事り
 捕て呵責し教敷と訓りうけ長川に投入して海に無姫
 一人に認せむ念りうり重原や日小浦十走りの歌
 昔にちりち老と現りても歌と教ひを以て徳徳に
 一人の徳又まひ弄為とをも感敷し照姫と付ひて已か

家よりいり子書嫉妬さるる若して娘のうりうり
 とゆき松のま枝と信じて書りて疾く人守るれり
 凡そより漂り扶さぬよけひの娘と把るべきを
 人とのま流し依てこそ書りわきたす人買のよ
 りうりる友後い濃列青葉の宿よりうりてひきこる
 けけの中は眉目とまきりうり満市は事後り
 三州よりえり取嫁しうりて之事謀殺の遠んる

坊舎金堂として終る長照院壽佛坊と号す中蹟今
長照院補藤氏の子院の二坊とぬる委しく
院の什宝小栗小傳と釋す

長照院什宝

小栗靈驗記 照源姿見古鏡 鬼鹿毛馬響同鏡 天狗爪

宗室通室古鏡 小栗浦重喜老歌 相生合歡竹 照源菩提根冊

再版主

相模國鎌倉郡藤沢町西富町第六十一番地

清淨光寺山内長生院住職 木田正寛成



